

第1回芸術文化振興ビジョン検討委員会資料

令和7年8月4日

県民生活部芸術文化課



Hyogo
Prefecture

目 次

1	検討委員会スケジュール	・ ・ ・ ・ ・	3
2	第1期～第3期ビジョンの概要	・ ・ ・ ・ ・	5
3	第3期ビジョンの検証 指標の検証	・ ・ ・ ・ ・	9
	// 取組結果の検証	・ ・ ・ ・ ・	14
4	市町アンケート結果	・ ・ ・ ・ ・	20
5	ビジョン改定の方角	・ ・ ・ ・ ・	23



検討委員会スケジュール

スケジュール(案)

	R 7 (予定)		R 2 (前回改定時)
4月			
5月			
6月	検討委員会設置	・委員数16名(前回と同数)	
7月			
8月	8/4 第1回検討委員会	【議題】 ①現行ビジョンの検証(成果指標と取組方針に基づく施策の検証) ②改定の方針(骨子案の検討)	8/28 第1回検討委員会
9月			
10月			
11月	第2回検討委員会	【議題】 ①第4期ビジョンの素案 ②第1回委員会の意見と反映状況	11/12 第2回検討委員会
12月	パブリックコメント		12/25～1/14 パブコメ
1月	第3回検討委員会	【議題】 ①第4期ビジョン最終案 ②第1回、第2回委員会の意見と反映状況 ③パブリックコメント意見と反映状況	1/18 第3回検討委員会 ※書面開催
2月	2月県会議案上程		2/22 議案上程
3月	議案可決		3/4 議案可決

第1期～第3期ビジョンの概要

第1期～第3期ビジョンの概要



	第1期(H16～H26)	第2期(H27～R2)	第3期(R3～R7)
基本目標	芸術文化立県ひょうご		
基本方向	(1) 芸術文化を 創造・発信 する (2) 芸術文化の 場を育て 広げる (3) 文化力を高め、 地域づくり に活かす (4) みんなで 支え、総合的 に取り組む (5) ポストコロナ社会 への対応 ※第3期～		
重点取組 項 目		(1) 身近に 芸術文化に親しむ環境 (2) 「 ふるさと意識 」に根ざした兵庫の文化 (3) 国内外 への積極的な情報発信 (4) 施設の適切な 維持・保全 と活性化の推進	(1) 人材育成と新たな技術(ICT)の活用 (2) 身近に 本物の 芸術文化に親しめる環境 (3) 芸術文化資源を通じた 地域の活性化 (4) 連携体制 の強化
成果指標		(1) 芸術文化に 接する機会 がある人:目標 50% (2) 自慢したい 地域の宝 あると思う人:目標 60%	(1) 芸術文化に 接する機会 がある人:目標 50% (2) 自慢したい 地域の宝 あると思う人:目標 65% (3) 出向いて芸術文化を 鑑賞した人 :目標 90% (4) 芸術文化活動を 自ら行った人 :目標 55%
主な事業	・芸術文化センター、兵庫陶芸美術館(H17) 考古博物館(H19) 横尾忠則現代美術館(H24) ・ひょうごアーティストサロン開設(H18) ・わくわくオーケストラ教室(H18～) ・ピッコロわくわくステージの開始(H22)	・子ども伝統文化わくわく体験教室(H27～) ・新進芸術家育成プロジェクト・サイトシリーズ(R1～) ・兵庫県障害者アートギャラリー(R2～) ・ふるさとひょうご寄附金の活用(H29～)	・県立施設の感染防止・活動環境整備(R2,3) ・感染症拡大を受けた動画配信事業(R2～) ・青少年財・トレーニング人材育成事業(R3～R5) ・芸術文化観光専門職大学の開学(R3)
国の動き	・劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(H24.6) ・古典の日に関する法律(H24.9)	・文化芸術基本法(H30.6) ・障害者文化芸術活動推進法(R2.5) ・文化財保護法の改正(H30.6) ・文化観光推進法(R2.5)	・文化芸術推進基本計画(第2期) ―価値創造と社会・経済の活性化―(R5.3) ・博物館法の改正(R5.4)

第3期ビジョンの基本方向と重点項目

重点1(育成、ICT)

重点2(本物提供)

重点3(地域活性化)

重点4(連携強化)

基本方向1 「芸術文化を創造・発信する」

展開方向	主な取組
(1) 芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する	①若手芸術家の発掘・育成 ②芸術文化活動を支えるプロフェッショナルの確保・育成 ③文化ボランティアの育成・活用
(2) 芸術文化の拠点機能を高める	①県内外の施設とのネットワークの拡充による利活用の促進 ②芸術文化施設の活用、適切な維持・保全 ③新たな芸術文化拠点整備における地域との連携
(3) 芸術文化の発信力を強化する	①ICT等を活用した多彩な芸術文化情報の発信等 ②芸術文化の活動・鑑賞機会等に関する地域偏在の解消 ③大規模イベントを契機とした国際的な芸術文化活動の展開・発信

基本方向2 「芸術文化の“場”を育て広げる」

展開方向	主な取組
(1) 地域で多様な“場”を育て広げる	①芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進 ②様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用 ③交流の機会の創出と充実 ④県民の芸術文化活動への支援
(2) 芸術文化による社会包摂の実現	①高齢者・障害者・外国人の芸術文化活動への支援 ②すべての人があらゆる地域で芸術文化を享受できる環境づくり
(3) 青少年が本物の芸術文化に親しむ	①青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実 ②学校教育との連携の推進 ③親への啓発や親子交流の促進 ④文化の担い手の発掘・育成に向けた青少年への魅力発信

基本方向3 「文化力を高め、地域づくりに活かす」

展開方向	主な取組
(1) 芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上	◆文化財・伝統芸能等地域資源の保存と活用 ◆産業遺産や地域の芸術文化遺産の再評価 ◆地域内部への芸術文化資源のPR ◆地域(シビック)プライドの育成
(2) 地域資源を活用した地域の元気づくりの推進	◆地域文化資源を活用したまちづくりの推進 ◆観光資源としての魅力向上に向けた展開方法の充実 ◆地域資源の観光への活用 ◆芸術家の発想を活用した地場産品等の制作・発売

基本方向4 「みんなで支え、総合的に取り組む」

展開方向	主な取組
(1) 県民自らが芸術文化を支え育てる	①芸術家を支援育てる目を持つ観客の育成 ②県民等の参画と協働の促進 ③ふるさと寄附、クラウドファンディング等の促進
(2) 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する	①相互連携を支えるプラットフォームの整備 ②芸術文化振興のための財源の確保 ③国や市町、関係団体との連携体制の確立

基本方向5 「ポストコロナ社会への対応」

展開方向	主な取組
	①ガイドラインを踏まえた感染防止対策の徹底と円滑な施設の運営 ②動画配信等新たな創造・発信手法の展開 ③ICT等を活用した多彩な芸術文化情報の発信等(再掲) ④芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進(再掲) ⑤様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用(再掲) ⑥青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実(再掲) ⑦相互連携を支えるプラットフォームの整備(再掲)

R7芸術文化振興ビジョン 主要施策

※内訳は千円単位

I 芸術文化を創造・発信する (5,766百万円)78事業

(1) 芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する		
①若手芸術家の発掘・育成	アーティストサロンの運営	348,177
②芸術文化活動を支えるプロフェッショナルの確保・育成		978,509
③文化ボランティアの育成・活用		7,779
(2) 芸術文化の拠点機能を高める		
①芸術文化事業の企画・実施	芸術文化施設の運営	4,376,889
②県内外の施設とのネットワークの拡充による利活用の促進		
③芸術文化施設の活用、適切な維持・保全		550
④新たな芸術文化拠点整備における地域との連携		10,364
(3) 芸術文化の発信力を強化する		
ひょうごプレミアム芸術デーの開催		
①ICT等を活用した多彩な芸術文化情報の発信等	*地域で親しむ舞台芸術応援事業	16,018
②芸術文化の活動・鑑賞機会等に関する地域偏在の解消		28,007
③大規模イベントを契機とした国際的な芸術文化活動の展開・発信		

II 芸術文化の”場”を育て広げる (514百万円)78事業

(1) 地域で多様な”場”を育て広げる		
①芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進*	県民芸術劇場	26,051
②様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用*	ロビーコンサート	18,900
③交流の機会の創出と充実	ふれあい文化の祭典	34,479
④県民の芸術文化活動への支援	アートで躍動Z世代文化部応援PJ	34,680
(2) 芸術文化による社会包摂の実現		
①高齢者の芸術文化活動への支援	いなみの学園の運営	92,417
②障害者の芸術文化活動への支援	障害者芸術「する・みる・ささえる」応援プロジェクト	11,105
③外国人の芸術文化活動への支援		
④すべての人があらゆる地域で芸術文化を享受できる環境づくり		14,612
(3) 青少年が本物の芸術文化に親しむ		
子ども伝統文化わくわく体験教室		
①青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実*	ピッコロわくわくステージ	133,149
②学校教育との連携の推進	わくわくオーケストラ教室	6,746
③親への啓発や親子交流の促進	陶芸美術館「夏休み！1日まるごとこどもの日」	2,011
④文化の担い手の発掘・育成に向けた青少年への魅力発信		140,607

III 文化力を高め、地域づくりに活かす (1,709百万円)102事業

(1) 地域の芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上		
①文化財・伝統芸能等地域資源の保存と活用		1,132,131
②産業遺産や地域の芸術文化遺産の再評価		31,042
③地域内部への芸術文化資源のPR		71,230
④地域(シビック)プライドの育成	ともしびの賞の表彰	24,446
(2) 地域資源を活用した地域の元気づくりの推進		
①地域文化資源を活用したまちづくりの推進	アートde元気ネットワーク	48,834
②観光資源としての魅力向上に向けた展開方法の充実		87,245
③地域資源の観光と地域活性化への活用		125,446
④芸術家の発想を活用した地場産品等の制作・発売		189,568

IV みんなで支え総合的に取り組む (181百万円)27事業

(1) 県民自らが芸術文化を支え育てる		
①芸術家を支え育てる目を持つ観客の育成	兵庫県生活文化大学(芸術文化協会)	6,629
②県民等の参画と協働の促進		7,374
③企業メセナ、ふるさと寄附、クラウドファンディング等の促進		
(2) 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する		
①相互連携を支えるプラットフォームの整備*	芸術文化協会事業費補助	157,073
②芸術文化振興のための財源の確保	(一財)地域創造への負担金	10,508
③国や市町、関係団体との連携体制の確立	関西広域連合文化振興事業	

V ポストコロナ社会への対応

①ガイドラインを踏まえた感染防止対策の徹底と円滑な施設の運営		
②動画配信等新たな創造・発信手法の展開		
③～⑦*印【再掲】		
令和7年度当初予算		
8,172百万円	県民生活部 3,493百万円(うち芸術文化課 2,847百万円) 教育委員会 2,614百万円、総務部978百万円 等	
(285事業)		

第3期ビジョンの検証

成果指標の検証

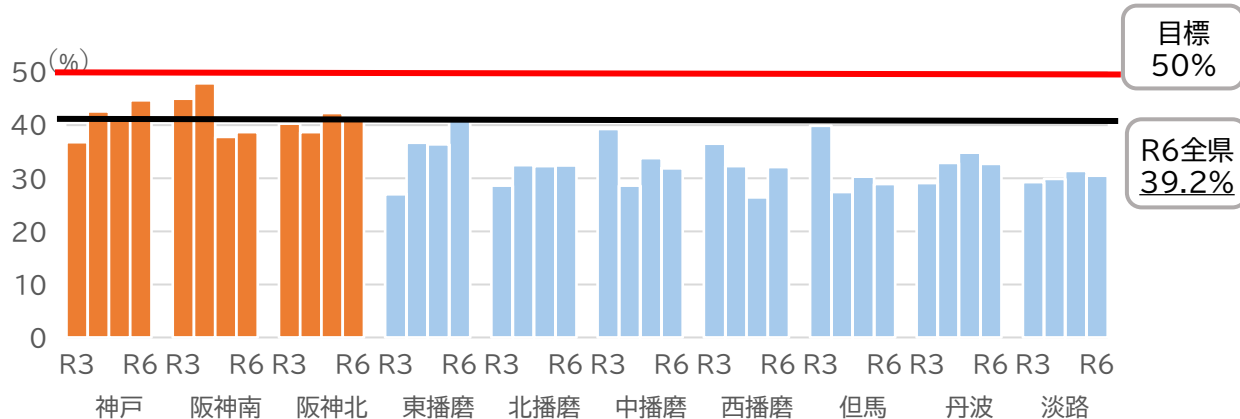
成果指標の検証

指標①

「暮らしの中で**芸術文化に接する機会**があると思う人の割合」

結果

- ・ 目標50%に対し、R6実績39.2%で目標未達
- ・ 神戸・阪神地域は概ね40%程度に対し、その他地域は30%程度と地域格差がみられる

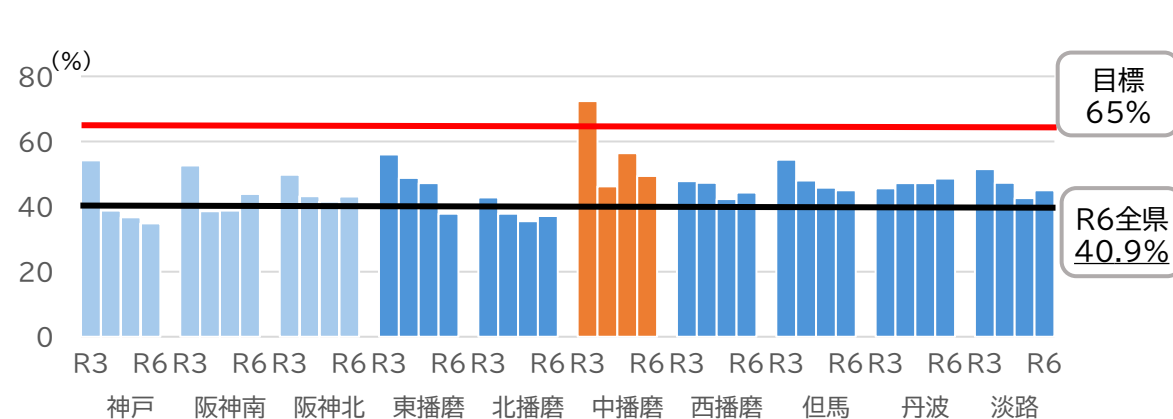


指標②

「住んでいる地域で、**自慢したい地域の「宝」**（風景や産物、文化など）があると思う人の割合」

結果

- ・ 目標65%に対し、R6実績40.9%で目標未達
- ・ 神戸・阪神地域以外で、比較的高い傾向が見られる。中播磨地域は、姫路城・祭りが影響している可能性。



「芸術文化に接する機会」は目標未達であるものの、神戸・阪神地域では比較的高く、**地域格差**が生じている。施設やイベント数の地域差が影響していると思われ、格差を縮小する施策が課題となる。

「地域の宝」は目標との乖離が大きく、全体的に低い数値となっている。地域に根差したさらなる**文化資源の掘り起こしや活用**が課題となる。

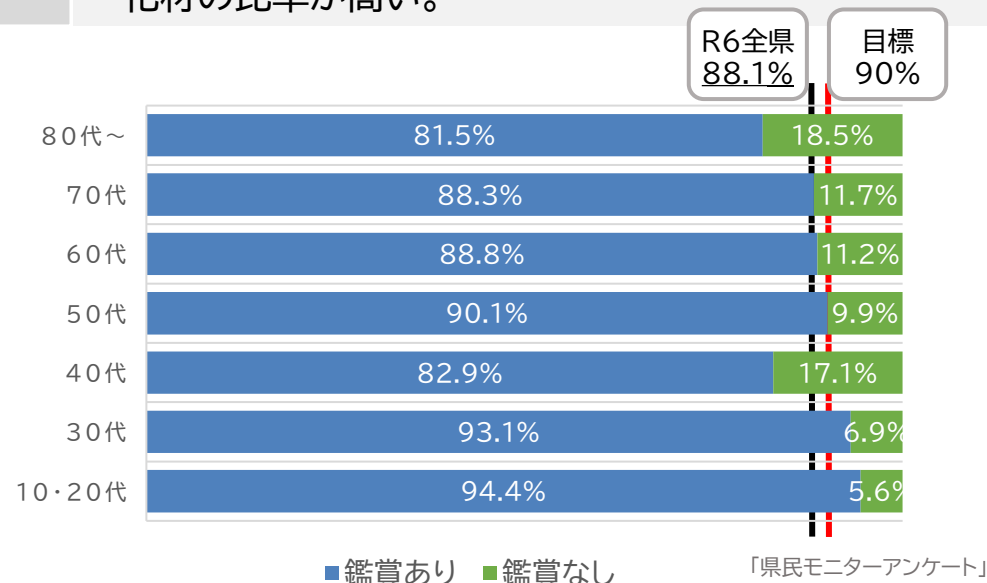
成果指標の検証

指標③

この1年間に外出いて芸術文化を鑑賞した人の割合

結果

- 目標90%(R7年)に対し、全体平均88.1%(R6年)とわずかに目標未達。
- 若年層において割合が高く、鑑賞内容の内訳は美術・文化材の比率が高い。

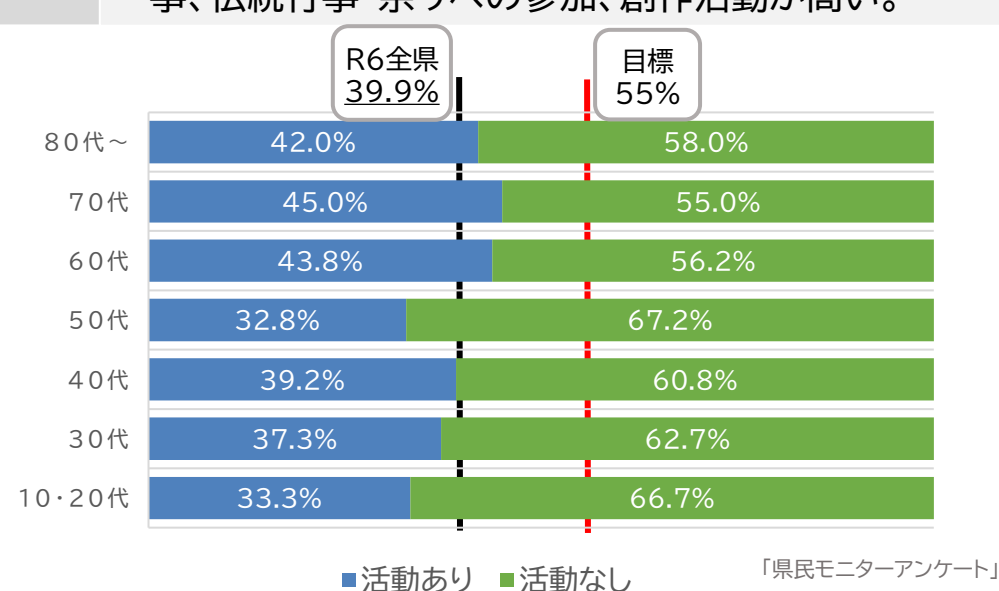


指標④

この1年間に芸術文化活動を自ら行った人の割合

結果

- 目標55%(R7年)に対し、全体平均39.9%(R6年)と目標未達見込み。
- 若年層において割合が低く、取組み内容の内訳は習い事、伝統行事・祭りへの参加、創作活動が高い。



「芸術文化を鑑賞」した割合は全体的に高く、目標の90%に近い数値となっている。
特に**若者世代の芸術分野への関心の高さ**が見られる。

一方で、「自ら活動を行う割合」は若者世代が低くなっており、若者世代への芸術分野に対する**活動の場の提供**や、**自ら行動を起こすきっかけ作り**が課題となる。

(参考) 成果指標 調査方法

■ 成果指標

- ・「暮らしの中で、芸術文化に接する機会があると思う人の割合」
- ・「住んでいる地域で、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合」

■ 調査手法:「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査 ※毎年度実施

■ 調査概要

調査地域 : 兵庫県全域

調査対象 : 県内に居住する満18歳以上の男女個人5,000人(各市町の住民基本台帳をもとに無作為抽出)

有効回答数: 2,052人～2,250人(R3～R6年 ※年度により異なる)

＜標本抽出及び集計方法＞

- (1) 住民基本台帳に記載された県民を母集団とした
- (2) 10の地域(県民局単位)ごとに500の標本数を、市町別・男女別・年齢10歳階級別の母集団構成比に応じて配分
- (3) 地域ごとの有効回答数について、重み付け集計により、全県の母集団構成比を復元

■ 成果指標

- ・「この1年間に外向いて芸術文化を鑑賞した人の割合」
- ・「この1年間に芸術文化活動を自ら行った人の割合」

■ 調査手法: 県民モニターアンケート ※5年に1度実施

■ 調査概要

令和1年度

- (1) 調査対象者: 県民モニター 2,385 人
- (2) 調査方法: 県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (3) 回答者数: 1,820 人(回答率 76.3%)

令和6年度

- (1) 調査対象者: 県民モニター2,368名
- (2) 調査方法: web上のアンケートフォームに入力
- (3) 回答者数: 1,776人(回答率75.0%)

(参考) 国調査(文化に関する世論調査)との比較

【参考】国調査(文化に関する世論調査)との比較

※同趣旨の設問に対し選択項目を揃えたもの

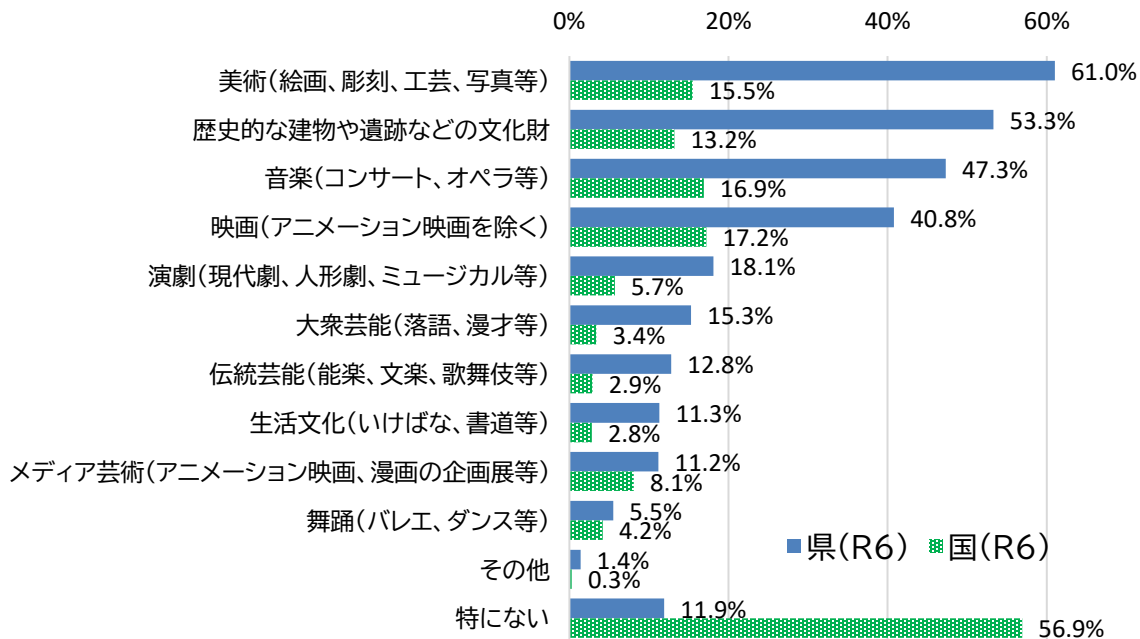
県指標

この1年間に外出して芸術文化を鑑賞した人の割合

国調査

この1年間に、文化芸術イベントに外出を伴う形で鑑賞した割合

この1年間に鑑賞した芸術文化イベント(回答内訳)



- ・何らかの鑑賞を行った割合は、県調査が約88%に対し国調査は約43%
- ・鑑賞内容の内訳に着目すると、国調査では「映画」「音楽」が上位であるのに対し、県調査では「美術」「文化財」が上位となっている。

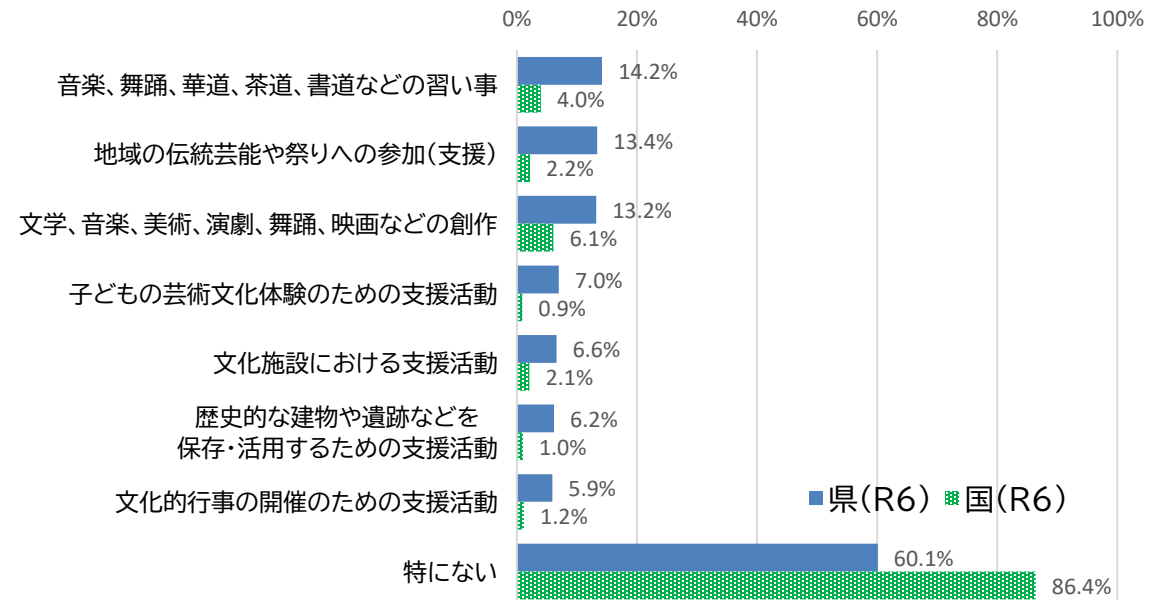
県指標

この1年間に芸術文化活動を自ら行った人の割合

国調査

この1年間に鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動を実践したり、活動を支援した人の割合

この1年間に自ら行った芸術文化活動(回答内訳)



- ・何らかの活動を行った割合は、県調査が約40%に対し国調査は約14%
- ・活動内容の内訳に着目すると、国に比べて県では「地域の伝統芸能や祭りへの参加(支援)」の割合が高くなっている。

第3期ビジョンの検証

取組結果の検証

新進・若手アーティストへの支援や大学・学校での次代を担う人材の育成に取り組みながら、拠点となる施設を中心に芸術文化を創造・発信し、様々な施策と絡めて県民が芸術文化に触れる機会を提供。

(1) 芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する

評価:○ 予算:1,334百万円 22事業 ※以下、R7当初予算

- **アーティストサロンの運営**
新進・若手芸術家へ相談・助言、活動の場(レコ-コンサート・リサイタル)を提供
- **芸術文化観光専門職大学の運営(R3開学)**
地元での就職・起業にも繋がり、但馬地域への就職割合15.1%
- **ピッコロ演劇学校、舞台技術学校の運営**
演劇・舞台の日本を代表する講師を迎え、プロ・アマ問わない演劇関係人材を養成
- **県立高校の特色ある学科の設置**
生徒の現状、地域の実情に応じた学びを展開すべく教育課程を編成
 - ・音楽・美術に関する学科2校、演劇に関する学科1校
 - ・文理探求科8校、地域科学探求科2校、STEAM探求科1校

芸術文化観光専門職大学



令和7年3月 第1期生が卒業

リサイタルシリーズ



出演者は企画から実施まで自らマネジメントを経験

(2) 芸術文化の拠点機能を高める

評価:◎ 予算:4,388百万円 40事業

- **兵庫県立芸術文化センターの運営 (参考資料P.8参照)**
コロナ禍後も順調に入館者を回復し、公演入場者数900万人突破
- **兵庫県立美術館の運営**
展示のみならず様々な芸術との融合事業により、イベント数も堅調に推移
- **兵庫津ミュージアムの運営**
県政150周年を契機として、歴史・文化・産業等を学び、体験できる施設として整備



兵庫県立美術館



西日本最大級の企画展示室

(3) 芸術文化の発信力を強化する

評価:○ 予算:44百万円 16事業

- **ひょうごプレミアム芸術デーの開催(R4~)**
1週間、県内施設の無料開放等を実施し、県民が芸術文化を身近に感じられる機会を提供
- **Instagram「ひょうごアートポータル」の運用(R5~)**
県内の様々な芸術文化イベントや施設をInstagramで紹介
 - ・R5:(発信数:24回 フォロワー:1493人 いいね:1615件 コメント: 48件)
 - ・R6:(発信数:16回 フォロワー:2393人 いいね:1291件 コメント:141件)
- **芸術文化施設のホームページ・SNSの運営**
各施設の公演や展覧会事業を紹介するだけでなく、新進芸術家の発表機会を提供

芸術文化センター開館20周年(R7)

ひょうごプレミアム芸術デー



ひょうごアートポータル



基本方向2 芸術文化芸術文化の場を育て拡げる

評価:◎

青少年の芸術文化体験機会の提供など本県の先進的な取組を着実に実施。人口減少が進み地域での“場”づくりはさらなる工夫が必要。多様性や社会包摂が求められる中、誰もが芸術文化活動に参加できる社会に向けた取組強化が必要。

(1) 地域で多様な“場”を育てる

評価:◎

予算:114百万円 30事業

- **アートで躍動Z世代文化部応援プロジェクト(R6～)**
高校生に交流、発表、文化団体の専門的指導を受ける機会を提供
- **県民文化普及事業(ふれあい文化の祭典)**
県・市町・県域文化団体が一体となり県内各地で様々な分野の祭典を実施
- **各種団体によるアウトリーチ活動**
 - ・広域的な地域で組織された団体(されたいけばな・茶道・琴)による活動(R6:4件、782人参加)
 - ・公募制により医療機関、福祉施設、学校等へ重点的に実施(芸文センター管弦楽団)
- **ピッコロ劇団による演劇指導**
劇団員を学校、職員研修等へ講師として派遣し、ワークショップを通じて人材育成、裾野の拡大を実施

高校生文化部フェス



文化部フェス:250人参加
合同練習:474人参加

ふれあい文化の祭典
(ひょうご日本民謡フェスティバル)



祭典全体では、
26,000人以上が参加(R6)

(2) 芸術文化による社会包摂の実現

評価:◎

予算:118百万円 25事業

- **兵庫県障害者芸術・文化祭の開催**
障害のある方から募集した作品を展示し自己実現と交流を図る
- **ピッコロシアターにおけるアクセシビリティ公演の実施**
音声ガイド・字幕付き・手話通訳公演の実施、点字パンフレットの作成 等
- **プレミアム芸術デーにおける誰もが芸術文化に親しむ取組**
ハートフルファストトラック、一時保育、手話通訳付き解説会 等
- **地域高齢者大学の推進**
生きがいづくり、社会参加・生涯学習活動を支援
- **県内大学の留学生への取組**
県内の文化施設等を無料・割引で利用できる「ひょうごカルチャーパス」を発行(R6:16,852部発行)

兵庫県障害者芸術・文化祭



過去最多の447名が出展(R6)

音声ガイド公演



舞台の状況や動きなどを、
ピッコロ劇団員が音声で解説

(3) 青少年が本物の芸術文化に親しむ

評価:○

予算:283百万円 23事業

- **わくわくオーケストラ教室**
県内公立中学1年生(全員)に本物のオーケストラ公演の鑑賞機会を提供
- **子ども伝統わくわく体験教室**
小中高生の授業で、伝統文化団体による体験事業を実施
- **兵庫陶芸美術館「夏休み！1日まるごとこどもの日」の開催**
親子を対象に粘土での造形活動を通じて陶芸文化に触れる機会を提供

わくわくオーケストラ教室



参加生徒数:147,764人(R3～6年)

兵庫陶芸美術館



親子での陶芸体験

県内各地に多様な芸術文化資産を持つ本県の特性を生かした取組により地域の文化力は着実に向上。フィールドパビリオン（芸術文化関係）を地域づくりに活かすため、万博終了後の活用方法等について市町と連携した検討が必要。

(1) 芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上

評価:○

予算:1,259百万円 43事業

- 兵庫県無形民俗部門ヘリテージマネージャー（歴史文化遺産活用推進員）人材育成 ※1,261人(R6末)
歴史文化遺産を発見・活用するヘリテージマネージャーを養成
(参考資料P.12参照)
- 日本遺産活用推進事業
全国最多9件の認定を活かし、県・市町を中心に広域的な取組を推進
- 「最古の登窯」復興と丹波焼の里活性化プロジェクト
丹波焼の里サポーターズ(約470)を巻き込みながら、最古の登窯を活かした丹波焼の里の魅力づくりを推進

- ふるさと文化賞の表彰
地域社会において伝統文化の継承に貢献するなどの功績が著しい個人・団体を表彰
- 文化財調査保存事業の実施
特に保存・活用のための措置が必要とされる文化財等を指定・登録し保護
(R6)指定文化財:883件 登録文化財:37件

日本遺産



「最古の登窯」



播但貫く、銀の馬車道 鉾石の道 陶芸体験では最古の登窯で焼成も

(2) 地域資源を活用した元気づくりの推進

評価:○

予算:451百万円 59事業

- ひょうごフィールドパビリオンの展開 (参考資料P.15参照)
地域の活動の現場(フィールド)そのものを発信し、来て、見て、学び、体験してもらう取組み
認定プログラム:260件(R7.6現在) 「文化・暮らし」分野:170件
- 国・県指定伝統的工芸品等の振興
歴史と伝統のある優れた工芸品や県内産品を地元市町と連携し普及・PRを実施
国指定:7品目(丹波立杭焼等) 県指定:26品目(有馬の人形筆、淡路鬼瓦等)
- 芸術文化観光専門職大学地域リサーチ&イノベーションセンター事業
大学が持つ「観光」「芸術」「経営」の研究シーズを活かして、教職員・学生・地元自治体・民間企業との連携により地域課題の解決に取り組む(累計74者128件のプロジェクトを成立)

ひょうごフィールドパビリオン



後世に傳(つた)える
淡路人形浄瑠璃



丹波の森で遊びを学ぶ

県指定伝統的工芸品



有馬籠

各施設、事業において国や芸術文化支援団体の助成金等を積極的な活用に取り組んだ。ふるさと納税やネーミングライツ等が社会で広がっている中、安定的な運営資金確保のため、さらなる財源確保に努める必要がある。

(1) 県民自らが芸術文化を支え育てる 評価:○ 予算:14百万円 15事業

- ふるさとひょうご寄附金(ふるさと納税)の活用
ふるさとひょうご寄附金に芸術文化に関するコースを設定し、事業に活用

R3～R6年度	件数	金額	活用事業
芸術文化センター 応援プロジェクト	187件	6,109千円	劇場座席に手すり、ホワイエにベンチの設置 等バリアフリー化に活用
県立美術館・博物館 応援プロジェクト	141件	35,072千円	展示・体験事業の魅力向上、所蔵資料充実 等に活用

ふるさと納税の活用



座席への手すりの設置
(芸術文化センター)

移動博物館「ゆめはく号」
(人と自然の博物館)

- ネーミングライツの導入
 - 芸術文化センター:5,000万円/年
 - 県立美術館:110万円/年

(参考)他文化施設の事例	
・京都会館:約52億円/50年	・名古屋市民会館:約5,000万円
・京都市美術館:約50億円/50年	・広島県立文化芸術ホール:約1,200万円
・神戸文化ホール(神戸市):約50億円/50年	

(2) 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する 評価:○

- 文化庁、(一財)地域創造など助成金の活用 (参考資料P.17参照) 予算:168百万円 12事業

<R6年度の助成状況>

	助成額全体	県内(市町含む)	全国比	芸術文化センター	ピッコロシアター	県立美術館
文化庁 (日本芸術文化振興会)	7,385,586千円	328,863千円	4.45%	134,799千円	40,592千円	3,500千円
(一財)地域創造	555,490千円	25,814千円	4.65%	2,705千円	-	4,000千円

- アートde元気ネットワークひょうごの運営
地域の特色ある芸術祭等の主催者が連携し、共通チラシやSNSによる情報発信等を実施
- 関西広域連合文化振興事業
関西文化の日(文化施設等の無料観覧)の実施

全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」
(芸術文化センター)



日本芸術文化振興会
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

アートde元気ネットワークひょうご



8つの芸術祭の共通PRチラシ

緊急事態宣言等、各段階において様々な制限が課せられる中、感染拡大防止と事業継続、県内芸術家のサポートに尽力。今後、コロナ禍で発展・拡大したデジタル技術を活用した情報発信や新たな表現活動への支援等が求められる。

(1)ガイドラインを踏まえた感染防止策の徹底と円滑な施設の運営

評価:○

- 芸術文化施設の感染防止・活動環境整備(R3)
緊急事態宣言下、公演の中止・延期、時短開館、観客収容率50%等の対応を実施
公演前のPCR検査、出演者が陽性者となった際の代役対応等の実施
劇場各設備に対する専門業者による抗ウイルスコーティングの実施
- 芸術文化公演再開緊急支援事業(※R2.7～R3.2)
収容率50%等の制限下、事業運営が困難となることから施設利用料に対する補助を実施

申請件数	助成金額
1,493件	48,585千円

- 舞台芸術鑑賞機会創出事業
コロナ禍で減少した音楽・演劇等の鑑賞機会やアーティストの活動の場を提供

採択事業数	助成金額	参加人数
103事業	40,597千円	25,733人

(2)動画配信等新たな創造・配信手法の展開

評価:○

- ひょうごアーティスト動画配信事業(R3)
発表・触れる機会とともに減少したことから兵庫ゆかりの芸術家が出演・制作した動画を配信
配信動画数:117本 Youtube登録者:2,476人
- 県民芸術劇場動画配信事業(R4)
県民芸術劇場において、市町・小学校等の事業検討のため登録団体のPR動画を配信

助成件数	助成金額	鑑賞者数
33事業	13,356千円	8,701人

- ひょうごつながろうアート応援プロジェクト事業
毎年度選出する県芸術奨励賞等の受賞者の動画を順次動画配信リストに追加

ひょうごアーティスト動画配信事業

	アーティスト名	再生数
1	宇野 友基子(ハープ)	35,806回
2	関 典子(ダンス)	24,284回
3	東音松浦 麻矢 他(長唄)	24,026回
4	松井 博士(いけばな)	19,891回
5	花柳 芳圭扇 他(ダンス)	11,855回

動画再生数上位5本

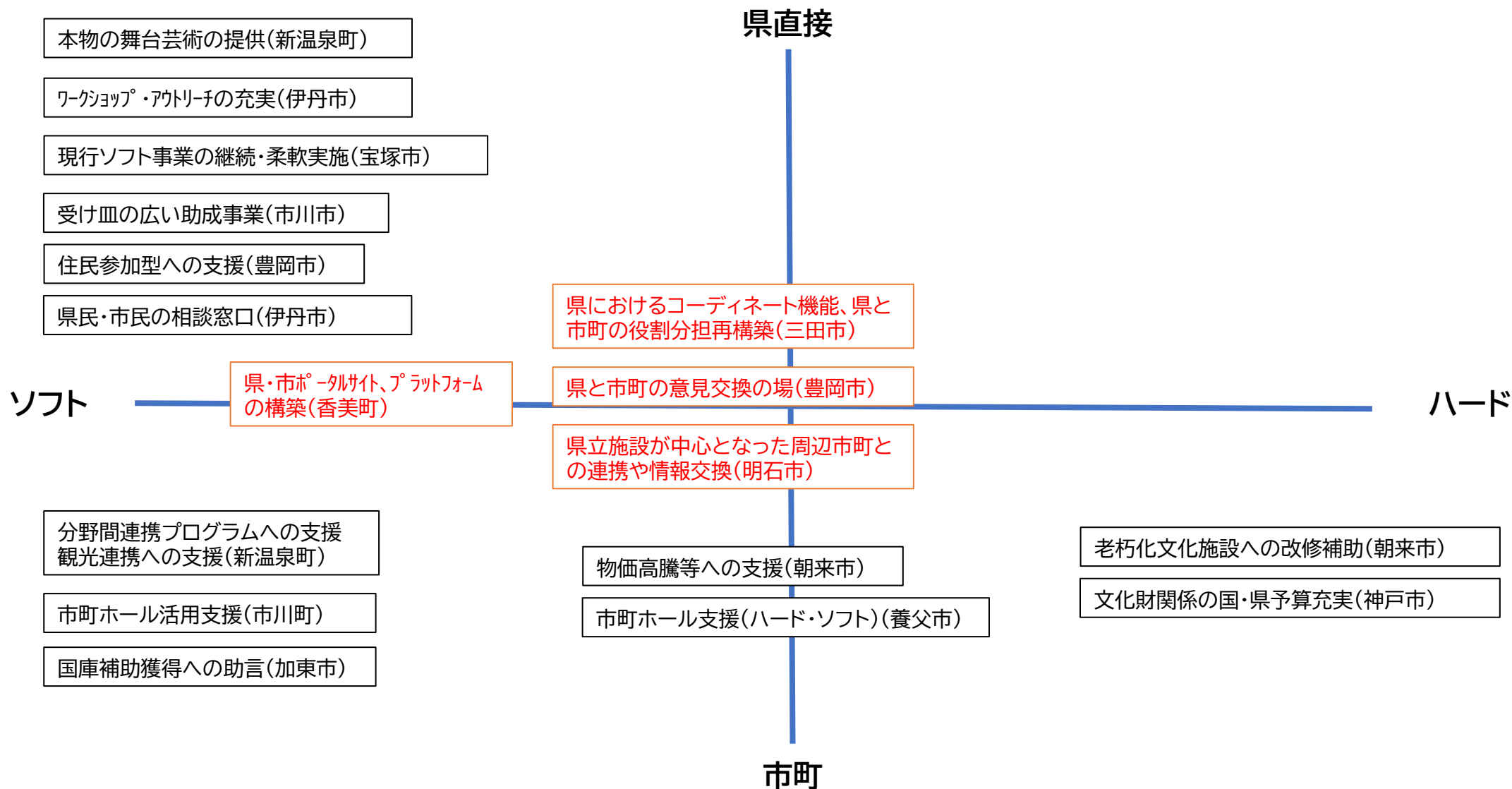
ひょうごつながろうアート応援プロジェクト事業



市町アンケート結果 R7.2月実施

市町意見（R7.2アンケート実施）

- ・市町からは県に対し、引き続き、ソフト事業の継続・充実を求める声が多くあった
- ・一方、県に市町連携や情報共有の仕組みを求める意見や、財政支援を求める声もみられた



市町意見（R7.2アンケート実施）

	県に期待する施策・支援等
神戸市	- 文化財修理補助事業費補助の増額に向けた国への共同要望及び県随伴予算の確保 - 県指定文化財の保守点検等の維持・管理に関する財政支援の拡充 「わくわくオーケストラ教室」等、小中学生の体験学習について、保護者の負担軽減と教員の働き方改革を踏まえた柔軟な事業実施の検討
伊丹市	- 短時間のワークショップや講座の開催、多方面へのアウトリーチ事業等、気軽に参加できる施策の展開 - 文化芸術活動に取り組む県民・市民が、気軽に相談することのできる窓口の設置
宝塚市	- 芸術文化活動機会促進事業費補助の継続実施 - 上記事業の募集期間を現行の年度当初の1回から上半期・下半期の2回に分ける等の見直し（※実施の半年前頃に事業を計画する団体が多いため）
三田市	- 総合文化センター（H19開館）の大規模修繕や長期・継続的な組織・人員体制の整備等、現状や将来課題を踏まえた県と市町の役割分担再構築 - 市町の文化施設のマネジメントや文化振興事業に関するコーディネート機能 - 各種文化振興事業に関する国への財政支援措置要望
明石市	明石市立文化博物館への指定管理者制度導入後、市職員が博物館運営に携わる機会が減少し、周辺施設との関係性が途切れているため、県立施設が中心となり周辺の市町施設と連携や情報交換して文化芸術事業を展開する仕組みづくり
加東市	R6年度に県が窓口となり地域の歴史を題材にした声優朗読劇への補助金を獲得。今後も国や民間団体による補助金の獲得に対する支援・協力
市川町	- 市町ホール活用支援事業（～R5）の復活 - 団体が申請しやすく受け皿の広い助成事業の実施
相生市	西播磨文化会館の民営化（R6～）後も予算措置を含めて西播磨文化協会連絡協議会を維持
豊岡市	- 地域の貴重な文化財建築物を活用した住民参画型の文化芸術事業への助成制度の創設 - 県と市町の文化芸術担当者の情報共有・意見交換の場の創出
養父市	市内4つの文化ホールの集約・廃止等の検討、スタッフの高齢化・後継者不足など多くの課題を抱えており県補助金の充実が必要
朝来市	- 物価高騰・人件費上昇のためソフト・ハード両面の補助制度 - 補助金申請手続の簡素化 - 開館後30年以上経過している文化施設への改修等経費の補助制度
香美町	- 県・市町の施策を取りまとめたポータルサイトの構築 - 事業計画の共有等により市町が事業連携しやすくなるためのプラットフォームの構築
新温泉町	- 本物の舞台芸術の公演機会の提供と支援 - 舞台芸術と伝統芸能の連携プログラム等への支援 - 観光プログラムと連携したイベントの支援
洲本市	ふれあいの祭典事業は県内各地で開催する価値は大きいですが、市町職員の事務負担が大きく市町を介さず各団体が自主的に運営する仕組みが必要

ビジョン改定の方角

第4期芸術文化振興ビジョンの論点（重点取組（案））

1 第3期ビジョンの検証結果

- 若者世代は、鑑賞機会が多いが、自ら取り組む機会が少ない
- 芸術文化の鑑賞機会が、神戸・阪神地域とその他地域で格差
- 全国最多の日本遺産など豊富な地域資源の更なる活用の余地
- ふるさと寄附金やネーミングライツ等、社会全体で支える仕組み

2 市町アンケート結果

- 県と市町の連携や情報共有の強化

3 取り巻く環境の変化

① 社会潮流の変化

- 人口減少・少子高齢、担い手不足
- コロナ後の行動変容と芸術文化の力の再評価
- 物価高・円安、米国関税問題

② 県政をめぐる動き

- 令和7年度重点取組
 - ・誰も取り残さない ・若者が輝く
 - ・活力が沸き上がる ・県政運営基盤
- 県庁舎再整備（県民会館廃止）

③ 国の芸術文化行政の動き

- 文化財の保存と活用 ○ 文化観光の推進
- 世界に誇る多様な文化芸術の創造・発信
- 部活動の地域移行の推進
- ユネスコ無形文化遺産の登録・提案
- PPP/PFIの活用の促進

改定(第4期ビジョン)の重点取組(案)

重点① 若者世代の活動支援と担い手育成

- 若者世代を対象とした新たな施策の検討

重点② 誰もがどこでも芸術文化に親しめる環境構築

- 地域偏在の解消（アウトリーチ、動画活用等）
- 社会包摂に関する取組の先導（プレミアム芸術デー等）

重点③ 芸術文化資源を活かした地域活力の喚起

- 日本遺産、フィールドパビリオン等の活用・継承
- 地域の芸術文化資源の積極的なPR

重点④ 持続可能な芸術文化環境の構築

- 県立文化施設の持続（資金・設備・体制）
- 市町との連携強化

第4期ビジョンの重点取組例

重点取組1 若者世代の活動支援と担い手育成



(高校生文化部フェス)



(合同練習会)

アートで躍動Z世代部活動応援プロジェクト (R6~)



高校生チャレンジ留学～HYOGO高校生「海外武者修行」応援プロジェクト～ (R6～)

重点取組3 芸術文化資源を活かした地域活力の喚起



「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷

日本遺産活用推進



(後世に伝える「淡路人形浄瑠璃」)
フィールドパビリオンの継承と活用



重点取組2 誰もがどこでも芸術文化に親しめる環境構築



ひょうごプレミアム
芸術デー(R4～)



障害者芸術・文化祭
「美術工芸作品公募展」



(おでかけミュージアム
三田市立総合文化センター)
地域で親しむ舞台芸術応援
事業(R7～)

重点取組4 持続可能な芸術文化環境の構築



(最古の登窯復興と丹波焼の里活性化推進プロジェクト)
ひょうごふるさと寄附金の獲得促進



(KOBELCO大ホール)
ふるさと寄附金、ネーミング
ライツの獲得推進